



# 大学生の食ライフスタイルと親子関係

○小野寺敦子・河野理恵  
(目白大学人間学部)

## 本研究の目的

近頃の大学生には、家族と住んでいても各自が別々のものを食べる個食、友達とも一緒に昼食をしない孤食、さらには朝食は食べず屋におにぎりや菓子パンを食べ、夜にバイト先の「まかない食」という偏食が顕著である。筆者はこうした大学生の食ライフスタイルに親子関係が影響を与えているのではないかと考え研究を行ってきた。本研究では大学生における食ライフスタイルと母親の食ライフスタイルとの関係および彼らが評価する父親/母親との関係性について検討する。

## 調査対象者と調査内容

1. **調査対象者**: 都内私立大学に通う大学生とその保護者にアンケート調査を実施し254組のデータを得た(息子と母親66組・娘と母親188組)。母親の平均年齢は50.69歳(SD=4.24)、子どもの平均年齢は20.18歳(SD=1.64)であった。2. **分析内容**: ①食ライフスタイル項目: 河野・渋谷・小野寺・西川(日本心理学会第77回)の「食ライフスタイル尺度」を参考に18項目を設定し両者に同じ内容を尋ねた。②大学生の子どもからみた父親/母親との関係について10項目を設定した(例: 父親/母親と私は意見が対立する。誰よりも父親/母親を頼りにしている)。①②共に4段階評定で回答を求めた。

## 結果1 「食ライフスタイル」の因子分析結果 (因子構造は幼児を持つ母親/実母ともに下記の4因子)

第1因子「料理への好奇心」因子	第3因子「伝統的食事」因子
1.料理をすることが好きである	1.伝えていきたい我が家の味がある
2.料理をすることは楽しい	2.自分の母親から教わった料理を作る
3.料理は苦手である(逆転)	3.年中行事に合わせた食べ物(おはぎ・チラシずし)を食べる
4.得意料理がある	4.おせち料理(一品でも)や赤飯などの伝統食を作る
第2因子「健康的食事」因子	第4因子「コンビニエントな食事」因子
1.毎日の食事は栄養のバランスがとれている	1.コンビニ等でお弁当やおにぎりを買う
2.毎日、野菜を食べている	2.ファーストフード(ハンバーガー・牛丼等)を利用している
3.健康的な食生活を送っている	3.外食をする
4.和食(煮物など)を作る	4.すしやピザなどのデリバリー(出前)を頼む

### 子ども/母親ハナマル食群の特徴

料理への好奇心が高く健康的な食生活を送り、家族とも一緒に食事をとっている

## 結果2 子どもの食ライフスタイル群 (因子得点を用いたk-means法による)

	子どもハナマル	子どもウチ食	子どもソト食	子ども無関心
I 料理への好奇心	高	低	低	低
II 健康的食事	高	高	低	低
III 中食(コンビニ)	低	低	高	低
IV 家族と食事	高	高	低	低
V 間食	低	低	高	低

**子どもウチ食群の特徴**: 家庭で健康的な食事食べてはいるが、料理への関心は低い

**子ども/母親無関心食群の特徴**: 「食べること」それ自体に関心が低い群

## 結果3 : 父親/母親との関係の4群

	対立群	親密群	アンビバレント群	希薄群
対立得点	高	低	高	低
親密性得点	低	高	高	低

## 考察

本研究では、①大学生の子どもの食ライフスタイルが、②子どもの食ライフスタイルと父親/母親との関係性を検討した。

その結果、料理に関心をもち、家族と食事を一緒にとり、健康的な食生活を送っている大学生の子どもは、父親・母親と親密な親子関係にあることが推測された。その一方、ファーストフードやコンビニエンスストアをよく使う子どもの母親は「ソト食」あるいは「食に無関心」であり、親子関係は希薄であった。さらに食に対して無関心な子どもは、親子の関係の対立と近い関係に配置された。

以上のことから大学生の子どもの食ライフスタイルは母親の食ライフスタイルと関連し、さらに親子関係とも関連していることが示唆された。

## 結果4 : コレスポネンス分析の結果

